

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第137回本部会議 記録

日 時／令和4年12月23日(金)

15:43～16:06

場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】

これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第137回本部会議を開催します。まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

【佐賀井新型コロナウイルス感染症対策監】

資料1をご覧ください。まず、スライド1です。主な指標の状況について、昨日12月22日時点で、新規感染者数は、全ての地域で今週先週比が1を下回っておりまして、人口10万対では、札幌市642.5人、札幌市を除く地域で705.0人、全道で681.4人と、いずれの地域も減少傾向が継続しております。また、病床使用率ですが、札幌は55.7%、札幌市を除く地域が44.6%、全道48.2%と、いずれの地域も足下で増減を繰り返しておりますが、引き続き、高い水準が続いております。

続いて、スライド2です。各圏域の状況ですが、新規感染者数の先週比が、全ての圏域で1を下回っておりますほか、病床使用率は多くの圏域で減少傾向にありますものの、札幌市、道北圏、十勝圏では、いずれも50%を超えている状況でございます。

続いて、スライド3、総評①です。全国の状況です。全国では、新規感染者数の増加傾向が続いておりまして、本道は10万人当たりの新規感染者数が他の都府県と比較し低い水準となっており、国の専門家は今後一部地域を除き、多くの地域で増加傾向が見込まれると指摘しております。

医療提供体制です。病床使用率は、足下で増減を繰り返しておりまして、札幌市も同様の傾向が見られる中、地域では道北圏で高い水準となっておりまして、重症病床使用率は7.8%と、横ばいで推移しております。

感染状況です。新規感染者数は減少傾向が続き、直近の最多である先月22日から4割の減少となっております。また、年代別では、引き続き30代以下の割合が約5割となっているほか、60代以上が2割を超えております。

季節性インフルエンザについてですが、国の専門家は、全国では同時期と比べ例年よりも低いものの、直近2年間より高い水準にあり足下で増加していると指摘している中、本道は、下段の表にありますとおり、今月12日から18日で102名が感染し、1定点当たり0.45と増加傾向にあります。流行の目安を超えた地域も生じておりますことから、引き続き、モニタリングしてまいります。

続いてスライド4、総評②、今後の対策です。年末年始は人との接触機会が増えるため、感染リスクが高まる場面での感染防止対策の再徹底、いわゆる3つの場面における5つの行動について、道民の皆様や事業者の方々への呼びかけとともに、年内に希望する方の全員がオミクロン株対応2価ワクチンを接種いただけるよう、速やかな接種の検討を働きかけてまいります。

また、国の病床確保料の見直しを踏まえ、今後必要な病床を確保するため、従来どおりの運用を基本として対応するとの考えの下、関係団体や医療機関に丁寧に説明を行い、そ

の実情を伺いながら意向確認を進め、各医療機関等に最大限のご協力をいただきまして、新たな最大確保病床数を2,408床とし、これまでより124床増床することができたところでございます。また、この最大確保病床数に入院患者数が近づいた場合には、医療機関や関係団体等と情報共有等の上、緊急フェーズとして、必要な医療提供体制の確保に努めることとしておりまして、こうした内容に病床確保計画を変更し、本日、国へ提出してまいります。なお、フェーズごとの確保病床の増床の状況につきましては、スライド6に取りまとめてございますので、後程ご確認いただければと思います。

続いて、感染状況が高い水準にある中、地域によっては、医療機関でも院内感染などにより診療に影響が生じていることから、地域の医療機関や市町村などと情報共有をし、連携して対応するほか、医療機関の負担軽減に向け、軽症者の方には自己検査を積極的に促すとともに、陽性者登録センターの更なる体制整備を図ってまいります。

続いて、スライド5、総評③です。無料検査は、明日24日から臨時設置する札幌駅を含めまして、年末年始における全道8ヶ所の主要な駅・空港での検査の利用について周知をいたします。

また、道のワクチン接種センターですが、今月18日で年内接種は終了したものの、年明けは1月14日から接種を開始し、引き続き、オミクロン株対応2価ワクチンなどの接種を市町村とともに推進してまいります。

新型コロナの感染症法上の取扱いに関しまして、道ではこれまで、医療費や予防接種の公費負担の取扱いを含め、国としての考え方や進め方を示すよう、本年7月に国に要請するなど必要な対応を行ってきたところでございます。現在、国では、専門家による検討や分科会での議論が進められております中、その見直しに当たっては、新たな地方負担を生じさせることなく、都道府県のみならず市町村とも丁寧な協議を進め、円滑に移行していくことが重要でございまして、道としては、道内市町村や医療関係団体などと認識を共有しながら、引き続き、全国知事会とも連携し、国への働きかけを強化してまいります。

次に、スライド7以降について、何点か主要な動向等を補足説明いたします。スライドを少し飛ばしまして、スライド19をご覧ください。棒グラフの右側に示すとおりですが、各年代とも右肩下がりです。新規感染者数が減少しております。その割合は、左側の円グラフのとおりですが、引き続き30代以下の割合が最も高く50.8%となっているほか、60代以上の割合は21.7%と2割を超える状況が続いております。

次に、スライド20をご覧ください。集団感染の発生状況も、札幌市、また、札幌市を除く地域とともに、週を追うごとに徐々に減少傾向が続いている状況にございます。

続いて、スライド21をご覧ください。ワクチン接種ですけれども、上段の表、オミクロン株対応2価ワクチンの接種ですが、21日現在、VRSベースで約174万人、接種率は33.6%と全国を上回っておりますものの、このうち65歳以上は約83万7千人、接種率は50.0%と全国を下回っている状況にあります。その差については、徐々に縮んできている状況にございます。下段の表の下枠、小児の接種率ですが、1回目22.2%、2回目21.1%、3回目7.7%となっております。

続いて、スライド22をご覧ください。21日現在の全道のオミクロン株対応2価ワクチンの年代別の接種状況ですが、65歳以上で50.0%と高い水準にありますものの、20歳代以下の若年層は10%台にとどまっております。その接種促進を更に図る必要があるところでございます。なお、全国との比較で見ますと、20歳代以下の若年層を含む50歳代までの各年代では、全国の接種率を各々上回っておりますものの、60歳以上の高齢者層では、全国の接種率を下回っていることなども踏まえまして、全年代での接種の更なる加速化に向け、

市町村の取組を積極的に支援してまいります。

続いて、スライド23をご覧ください。道の接種センターの実績ですけれども、メッセージRNAワクチンにアレルギーがある方など向けのノババックスワクチンの接種機会の確保とともに、オミクロン株対応2価ワクチンの接種促進を図るため、10月から12月の土日祝日にこれを運営してきたところでございます。ノババックスワクチンは、延べ15日間で、全道67市町村の方々2,028人に、また、オミクロン株対応2価ワクチンは、延べ10日間で、全道84市町村の方々3,568人に接種したところでございまして、それぞれのワクチンの接種内訳は表のとおりでございますので、後程、ご参照願います。

続いて、スライド24をご覧ください。今月18日まで運営しておりました道の接種センターですが、引き続き、ホテルエミシア札幌を会場としまして、特例臨時接種の期間であります来年3月まで、これを継続することとし、これまで同様、オミクロン株対応2価ワクチンとノババックスワクチンの接種を推進してまいります。現在、1月分の予約を受付中でございまして、どちらのワクチンも全ての日程で空きがある状況でございます。下段の予約受付の欄に記載のとおり、道の接種センターを開設していない年末年始につきましては、コールセンターも休みとなりますので、この間の予約については、24時間受付しております道のホームページから申込またくよう、周知を図ってまいります。

その他のスライドについては、本日の説明に関するデータ、あるいは情報でございますので、後ほどご覧いただきたいと思っております。資料1の説明は以上でございます。

続きまして、資料2をご覧ください。資料1「道内の感染状況等」について、専門家や有識者の皆様のご意見を伺いますとともに、市町村や関係団体の方々にも事前にお知らせしてございます。有識者、専門家の皆様からは、概ね妥当である旨のご意見をいただいております。その内容をご紹介しますと、1「新規感染者数の減少傾向が見られるが、依然感染者数が多く、年末年始の人の移動により再拡大することが予測されるほか、特にBQ.1.1など、新しい変異株の流入や、最近、インフルエンザが道内でも流行り始めており、感染の急拡大が危惧されることから、引き続き、道民に感染対策を呼び掛けていただくようお願いする。」、2「福祉施設のクラスターが収まらないことから、引き続き、医療スタッフの派遣など迅速な対応をお願いする。」といったご意見が寄せられております。こうした面につきましては、今後の対策の参考としてまいります。

私からの説明は以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております札幌市保健所の山口感染症担当部長から説明をお願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】

札幌市の感染状況について、資料3に基づいてご説明をいたします。それでは最初のスライドをご覧ください。市内の医療機関等から報告されました新規感染者の1週間の合計についてであります。昨日時点では12,598人と、市の人口10万人当たり換算いたしますと642.5人であり、11月下旬から減少に転じておりますが、高い水準での推移でございます。

それでは、次のスライドをご覧ください。市内の入院患者数についてであります。直近では407人と、先週に比べてやや増加傾向となっております。重症患者数は、赤の折れ線グラフであります。5人となっております。入院受入医療機関における院内感染につき

ましては、入れ替わりはありますが継続的に発生しておりまして、依然として多くの入院患者にご対応いただいている医療機関がある状況でございます。病床使用率も5割を上回っておりまして、入院患者の動向につきましては、今後も注視が必要な状況でありますけれども、医療機関と連携を図り、引き続き、市内医療提供体制の維持に努めてまいります。

全国的にも新規感染者数の拡大傾向が続いておりまして、年末年始は、帰省や旅行などで人と会う機会が多くなること、また、インフルエンザにつきましても流行開始の目安となります定点当たり0.82と1に近づいている状況にありますことから、感染リスクが高まる場面での基本的な感染対策の徹底とワクチンの速やかな接種が必要と考えております。

以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、各部、振興局から、順次発言をお願いいたします。まず、空知総合振興局長、お願いします。

【白石空知総合振興局長】

資料4をご覧ください。はじめに、1の感染状況についてでありますけれども、真ん中の棒グラフにありますとおり、11月22日には652人とこれまでの過去最多となりまして、月別でも11月が最多となっております。12月に入りまして、新規感染者数は減少傾向にあるものの、一方で右のグラフにありますとおり、健康観察期間にある集団感染施設の数につきましては、依然増加傾向となっております。12月17日には過去最多となる57件となりました。

次に、2の感染拡大防止の取組でございますが、まず、年末年始の注意喚起といたしまして、管内首長との連名による感染拡大防止メッセージの発出をはじめ、コミュニティFMや、管内各駅・公共施設のデジタルサイネージ等による注意喚起などを行いましたほか、管内各学校の児童生徒の保護者に対しまして、冬休みの感染対策やオミクロン株対応ワクチン接種の促進等に関する周知・啓発を行うとともに、管内各大学にも啓発リーフレットを配布するなど注意喚起を行いました。

次に、医療機能等の維持・強化の取組といたしまして、管内の発熱外来のひっ迫状況について、医療機関と意見交換を実施いたしまして、岩見沢市内の病院において発熱外来の拡充を行っていただきましたほか、集団感染が発生した施設に対し、必要に応じ、ガウンやグローブ、フェイスシールドなどの衛生資材について支援を実施いたしました。

最後に、社会経済活動の維持についてでございますが、インスタグラムやブログなどのSNSを活用し、第三者認証店応援クーポンの利用促進を行いましたほか、高島屋新宿店の空知フェアでのHOKKAIDO LOVE!割のPR、さらには主要宿泊施設を訪問し、年末年始に向けた感染防止対策の再点検を依頼いたしました。引き続き市町や関係機関などと連携しながら、感染拡大防止に向けた取組などを行ってまいります。

報告は以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

その他、各部、振興局からご発言ございませんか。なければ本部長からお願いします。

【本部長（鈴木知事）】

本日の道内の新規感染者数は5,099人となりました。人口10万人当たりでは671.9人と、直近の最多でありました11月22日の1138.9人から約1カ月で4割減少するという状況になっています。全国的には増加傾向が継続しています。道内の状況は他の都府県と比べますと、低い水準になっています。一方で病床使用率は、48.2%と足下で増減を繰り返しています。高い水準が続いています。また、重症病床使用率については、6.0%と横ばいで推移しています。

こうした中、これから年末年始を迎えます。帰省や旅行が本格化するなど、人との接触の機会が増えてまいります。本部員、地方本部員においては、感染リスクが高まる場面における感染防止対策の再徹底について、3つの場面と5つの行動として再度、道民の皆様へ呼びかけるとともに、オミクロン株対応ワクチンの速やかな接種の検討についても働きかけをするようお願いをいたします。

また、病床の確保に向けては、これまで、関係団体や医療機関に丁寧な説明を行い、実情を伺いながら意向確認を進めてまいりました。各医療機関等に最大限のご協力をいただき、新たな最大確保病床数については2,408床とし、これまでよりも124床増床することができました。そして、本日、病床確保計画を変更し、国へ提出いたします。引き続き、病床確保に取り組むとともに、的確なフェーズ運用に向け、地域としっかり連携するようお願いいたします。

次に、ワクチン接種についてであります。道のワクチン接種センターにおける年内の接種は12月18日で終了いたしました。10月から12月までの間、オミクロン株対応ワクチン、そしてノババックスワクチン、合わせて5,596回の接種を行うことができました。多大なご協力をいただきました北海道医師会をはじめ、札幌医科大学、薬剤師会、看護協会など、関係の皆様に対しまして心から感謝を申し上げます。その上で、引き続き、皆様にご協力をいただき、年明けについては、1月14日から接種を開始いたします。希望する方へのワクチン接種が円滑に進むように取組をお願いいたします。

現在、新型コロナウイルスの感染症法上の取扱いについて、国の専門家による検討が進められています。見直しに当たっては、新たな地方負担を生じさせることなく、都道府県のみならず市町村とも丁寧な協議を進め、円滑に移行していくことが重要となります。道としては、道内市町村や医療関係団体などと認識を共有しながら、引き続き、全国知事会とも連携し、国への働きかけを強化してまいります。

今年は、1月に道内でオミクロン株が初めて確認され感染が急拡大し、その後もBA.2、そしてBA.5への置き換わりによって、感染拡大を繰り返してきました。また、全数届出の見直しなど、オミクロン株の特性を踏まえ、様々な取扱いについて大きな変更もありました。この1年間、道民の皆様、事業者の方々には、ご理解とご協力をいただき、あらためて心から皆様に感謝を申し上げます。また、最前線に対応に当たってこられた医療機関の関係者の皆様、市町村の皆様をはじめ、感染拡大防止の取組にご協力をいただいた全ての皆様に対して、この場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。

最後に、各本部員においては、年末年始の保健医療提供体制について、関係団体や医療機関との連携を十分に図るとともに、北海道陽性者登録センターや健康相談センター、健康サポートセンターについては、この期間もご活用いただけることを、道民の皆様にしつかりと広報していただきたいと思います。また、休みとなる期間における業務や連絡体制について、再度確認をするなど、万全の体制で年末年始を迎えるよう指示をいたします。

皆さん、1年間お疲れ様でした。

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示のあったことにつきまして、本部員は必要な対応をお願いいたします。
以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部の第137回本部会議を終了いたします。

（了）